

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500194	事業の開始年月日	平成23年2月1日	
		指定年月日	平成23年2月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵横浜みなみの丘			
所在地	(〒232-0066) 神奈川県横浜市南区六ッ川3-26-6			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月20日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年度も引き続き施設介護理念の「明るい挨拶・きれいな施設」を職員一同取り組み実践しています。のんびりした中にも外出レクやお食事・イベント等で季節を感じていただいています。
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月18日	評価機関 評価決定日	平成27年1月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇同一建屋に「サービス付高齢者向け住宅」と「デイサービス」を併設しており、利用者定員25名の約50%が上階「サ高住」の住人という環境のなかで、通い・訪問・泊りの密度の濃いサービスを提供している。                  ◇華道に心得のある職員が玄関に花を生け、折り紙細工で季節を演出する他、書道や職員手作りの指先ゲームを利用者と共に行うなど、職員の個性や特技をサービスに活かしている。又、美容師免許のある職員が、利用者に理美容サービスを行っている。                  ◇テーマに7月熱中症、10月は感染症などをタイミングよく入れた「年間研修計画表」を作成して、毎月職員研修を実施している。                  ◇昼食前には口腔体操のひとつ「パタカラ体操」も採り入れている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇デイサービスの無い日には、フロアを借りて「認知症サポーター養成講座」を開催するなど、サービス活動に柔軟に対応している。                  ◇職員は事務的でなく温かい家庭を目指し心を大切にしている。トイレ介助では、利用者が合図するまで外で待ち、利用者が恥ずかしいことはイニシャルを使って声掛けしたり、書類を指差して話すなど気を配っている。                  ◇近隣が比較的新しい住宅地で日中は留守宅が多いため、行事案内などは各家のポストに投函して施設のPRに努めている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵横浜みなみの丘
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、スタッフみんなの意見をまとめて作った「明るい挨拶・きれいな施設」を引き続き実践できるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念「明るい挨拶・きれいな施設」を事務室に掲示し、職員の個性を大事にし活かすことで明るい雰囲気を作り出している。</li> <li>・玄関を施設の顔として清掃を欠かさず、季節を感じるものを飾るなど理念の実践に努めている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎回、地域包括の方や民生委員の方に参加して頂いている運営推進会議を通じて、地域の方々と連携をとれるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケアプラザや自治会の回覧から地域情報を得るほか、施設の行事案内を近隣住民に配っている。</li> <li>・地域の運動会に利用者と職員が参加し、防災訓練に職員が出ている。</li> <li>・ボランティアによるハーモニカ・コンサートを毎月行っている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や民生委員の方々をお誘いして、認知症サポーター養成講座を開催しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の後半はフリートークになっていますので、地域の情報や町内会の方々のお話を聞かせて頂いています。その中で、認知症サポーター養成講座の開催を考えました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議には、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加して、2か月ごとに開催している。</li> <li>・運営状況報告の後、地域の高齢者の様子、消防署の救急訓練、消火訓練などの情報を得て、運営に活かしている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書は毎回持参しています。顔を合わせ、何気ない会話から少しずつ協力関係が築けるよう取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互理解を深めるよう、区の高齢福祉課へ報告書を提出する際、面談にて補足説明をしている。</li> <li>・管理者がが事業者連絡会の例会に出席して情報交換をしている。</li> <li>・地域ケアプラザからも地域活動などの助言を得て参考にしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」を施設内に掲示しています。年に1回は必ず所内研修をおこない職員に伝わるようにしています。	・身体拘束廃止と排除の2種類のマニュアルがあり、「身体拘束排除宣言」をトイレ前の壁に掲示している。 ・全職員を対象に、月例の30分研修で身体拘束排除・虐待防止をテーマに実施している。	・マニュアルの記録義務の項目にある説明書や経過観察記録を参考に、記録用紙を作り拘束ゼロの歯止めを「見えるかたち」にすることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自宅からきている方々が中心ですが、アザ等があった場合は記録に残し経過を見ています。さらに、続くようであれば、包括を通じて行政に連絡しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく利用される方に成年後見人が付いていますので、日々の中から学んでいき個々の必要性を見極め活用できるようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせの段階から、契約に至るまで、丁寧にお答えしています。また契約後も疑問点等があった時は、その都度お答えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	26年1月に家族会をおこないました。その際に家族からの意見を伺ったりしました。また家族同士の交流や意見交換がおこなえました。	・毎年開催している利用者・家族・職員間の意見交換の場である家族会で、意見や要望を聴き運営に反映している。 ・食事時間や一日のスケジュールなどの運営方法も話し合われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員全体会議と小規模単独のミーティングの時に問題提起し、皆で話し合っていて決めています。	・食事、環境、レクリエーションの3委員会で職員の意見を聴いており、食材業者の選定、年末の役割分担などの提案もある。 ・全社事例発表会では「認知症ケアの取り組み」を発表して、表彰を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の使い方の一つに、介護に取り組む姿勢や向上心などを基にスキル手当というものがあります。また、本社で主催している研修等に参加すると休日に参加するという向上心に対して手当が出ます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では介護スキルアップ研修Ⅰ～Ⅴ、その他いろいろな研修があり、参加を促しています。また、所内研修も月に一度は必ず行います。その他に、エルダー制度にて新人へのOJTを強化しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市小規模連絡会の講習参加や包括支援センター主催の研修に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、寄り添う事で信頼関係を築きながら、不安な事や困り事の解決に向けて取り組めるようにしています。自分で思いを言えない方は家族から聞き取りをして把握するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から本人・家族の話を傾聴し見学をして頂きながら、不安なく利用開始ができるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集、アセスメントをしっかりとおこなって必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	クラフトを一緒に制作したり、おやつを一緒に作ったりしています。そういった時には職員が教えていただくことが多くあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは、家族がどこまでできるかを見極め、家族ができない部分をお手伝いする姿勢でいます。家族の力が支援の中で一番大事なことがあることをお伝えしプランにも位置づけます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃や子供さん達と行ったことのある飲食店等に外出したり、横浜の街をドライブしたりしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“今日は何の日？”と言葉かけをして昔馴染みの話題を引き出すなどの工夫をしている。</li> <li>・利用者が昔行ったことのある餃子店やマクドナルドへの外出もある。</li> <li>・昔馴染みの友人が施設へ訪ねてくる利用者もある。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベント・レク・体操への参加の声掛けや午後のお茶会を開いて交流が持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も家族から相談がある時は、わかる範囲でお答えするようにしています。また折にふれ連絡をしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初回のアセスメントはもちろんですが、3ヶ月に1回のモニタリングを行い、一人一人の思いを受け止めるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴時などに利用者の本音を聴きだしている。</li> <li>・職員は“ハウ・レン・ソウ”（報告・連絡・相談）を合言葉に、申し送りノートで情報を共有している。</li> <li>・利用者が触れたくない思い出は表情から読み取って避けている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や家族からの聞き取り、また以前にケアマネがいた場合はケアマネより情報を集めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービスが始まる前に本人・家族と話をして把握に努めています。また、サービスを開始してからも聞き取りを基に情報を増やしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングや送迎時での家族との会話で変化を早くキャッチしてみんなで話し合いプランに反映しています。	・家族の意向を入れ、毎月のミーティングとケアカンファレンスで検討して介護計画を作成している。 ・介護計画は、3か月毎に見直し、状況の変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を記録しておき、3ヶ月に1回はカンファを行っています。ケアを変える時にはミーティングや申し送りに記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとり違うニーズを持っているという認識の基サービスを行っています。本人・家族の状況・状況		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の時に、包括の方々、民生委員の方々に様子を聞いています。その中で聞いたボランティアの方々に様々なものを披露していただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医がいらっしゃる方はそのままの関係性を続けていただきます。主治医がいらっしゃらない方は、往診できるクリニックを紹介しています。	・利用者の従来のかかりつけ医に、家族付添いで受診してもらっているが、往診専門の協力医での受診も支援している。 ・家族の希望で服薬管理に訪問サービスを毎日行っている事例もある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの確認をしていただきます。また、気になる症状の方は介護職員から相談し対応してもらって受診が必要な場合は同行をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	営業の際に、小規模の特性や使い方等を紹介しています。入院した方がいるときは、MSWや担当看護師と連携しながら退院後の生活が継続できるか検討します。退院時カンファにも参加します。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看護師が常駐していない事を伝えていきます。その際にできる事、できない事をお話しています。地域の往診医に協力していただき、本人・家族にむけ終末期の講習を企画中です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りや受入れ同意の事例はないが、往診医と対応を話合っている</li> <li>・職員は本部の「ターミナルケア基礎研修」に参加している。</li> <li>・次回家族会で、往診医を講師に頼み、利用者、家族にむけた「終末期の講習」を行う予定である。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	非常時緊急連絡網の作成。年に一度は必ず研修をおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災・避難訓練を行い消防署の方に来ていただきご指導いただいています。地域との連携は十分にとれていませんが、協力体制を築ける足がかりとして地域の訓練には参加しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練を消防署員立会いで実施している。</li> <li>・食品、飲料、ガスコンロ、トイレ、リハビリパンツなどの備蓄は毎年9月に定期的に点検している。</li> <li>・東日本大震災の教訓から、送迎車の燃料は常に確認・補充している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部防災マニュアルにある震災時の避難、集合場所に関連して、家族には予め正確な避難場所を周知されることが期待されます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1回所内研修をおこなっています。また接遇に気をつけて言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な研修のほかに「接遇強化月間」を設け、全職員で人格やプライバシー尊重の意識を再確認している。</li> <li>・排泄の失敗でも誇りやプライバシーを損ねないように、脱衣室に直接繋がるトイレを設けている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択や入浴の際の衣類の選択等々、様々な場面で個々に意見を聞きながら利用者本位の過ごし方を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中何度か横になられる方や食後の休み時間でも横になられない方々その方のペースに合わせて一日を過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアースタイルは希望に応じて美容師の方にお願ひしています。入浴後の肌の保湿等本人の希望に合わせておこなっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の希望や状態に合わせた食事形態で召し上がっていただくようにしています。おやつの中には職員と一緒におやつを作り召し上がっていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部で調理した出来立てを提供し、介護用食事にも対応している。</li> <li>・利用者とホットケーキを作ったり出前には利用者がメニューを見て、お好みのものを注文している。</li> <li>・今年のクリスマス会では、魚の解体ショーと寿司の実演がある。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分チェック表を毎日記入しています。自宅での様子も必ず聞きとるようにしています。さらに好みの物を聞きとりをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアをおこなうよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を基に、一人一人の排泄パターンを把握して、声掛けや誘導をおこなっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄表の活用や様子観察、夜間の定時巡回での声掛けで、トイレ誘導して、自立を支援している。</li> <li>・布団の上に置いた鈴の音を聞き取っての介助も行っている。</li> <li>・職員はトイレの外で待機し、利用者の了承を得て介助している。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族・本人・主治医・看護職・介護職・連携をとりながら運動や体操で体を動かしたり、服薬にて調整しながら適切な排泄ができるようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日にはおおよその時間を伝え納得していただいています。サービス付き高齢者住宅にお住まいの方が外出等の用事がある時は日にちを変更する等して、その方の要望に応じています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別入浴を行い、脱衣室内は1人ずつのカーテンで仕切り、利用者のプライバシーを確保している。</li> <li>・たっぷりの湯量で寛いで入浴できるようかけ流しにしている。好みのシャンプーや入浴剤があれば、持ち込んでもらっている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望される方には個室を利用していただいたり照明を落とすなど安心して休めるようにしています。夜間も同様にその方が安心できる休みかたを聞きながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや薬情ファイルに必ず薬の情報を入れてあります。変更があった時には必ずコピーをいただいています。職員は症状の変化の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や外食を企画して実施しています。書道やお菓子作りやクラフト作成等の趣味活動もおこなっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出先を決めています。サービス付き高齢者住宅にお住みの方は家族との外出や一人での外出をしています。先日は保土ヶ谷公園に紅葉を見に出かけました。	・玄関付近での日光浴のほか、スライドシート車を借りて、車椅子利用者も近隣のカフェに出かけている。 ・保土ヶ谷公園や中華街へ桜・紅葉見物やドライブにも出かけている。 ・家族の外出の都合に合わせて、職員が自宅への送迎を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、現金の持ち込みはお断りしています。サービス付き高齢者住宅に住んでいる方で自己管理できる方はご自分でおこなっていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望には施設の電話を使っていると思います。サービス付き高齢者住宅にお住まいの方はご自分の電話を持っている方が多いのでお使いになっています。手紙の投函はその都度、職員がおこなっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃と消毒はかかさずおこなっています。季節に合わせた部屋の装飾をおこない、玄関には季節の花を飾るようにして季節を感じていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和風の壁紙や小庭園など和を意識した明るい居間になっている。</li> <li>・楽に過ごせるよう、足置きやクッションの高さ・硬さを工夫している</li> <li>・玄関には職員が季節の花を活け、ソファを置いて利用者の出入りの安全に配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	宿泊時には個室にて一人の空間。通いの時には共用空間にて他の方とかかわりを持っていただいたり思い思いに過ごしていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居ではないので、全てを持参されてはませんが、連泊の方や定期的に宿泊される方は枕や時計等、持参される方もいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンやダンス、ナースコール、ベッドが設置されている。</li> <li>・私物の持ち込みは原則自由とし、使い慣れた寝具の持ち込みもある。急な泊りでは着替えだけで泊れる。</li> <li>・夜間の巡回のほか、館内一斉放送のスピーカーも備えられている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には至るところに手すりを付けています。全館バリアフリーになっていますので、車椅子を自走される方も一人で移動できるようになっています。手すりにつかまりながら歩く練習をしている方もいます。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ白寿庵横浜  
みなみの丘

作成日 平成27年1月18日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	マニュアルを使い全職員に研修を行っているが、説明書や経過観察記録の用紙が準備されていない。	説明書や経過観察記録のファイリング。	必要な用紙を準備してファイリングしておく。	3週間
2	35	災害時の避難、集合場所を家族に知らせていない。正確な避難場所を周知おくことが課題。	2月末までに避難・集合場所を記したお知らせを作成して配布し周知する。	お知らせを作成、配布し、家族会や個別に意識していただけるよう声掛けをする。	3か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。